

平成25年度 最上地区青少年育成懇談会 平成25年12月7日 新庄市民プラザ

最上管内の高校生と青少年育成関係者が、相互の認識と理解を深めることを目的として、「少子化と高齢化が進む最上地区を元気にするためにはどうあればよいか」をテーマに懇談会を開催しました。

高校生も参加しての懇談会は今回で10回目となります。当日の懇談を深めるため、参加者は、あらかじめ自分の考える「これからの元気な最上」を50文字提言にして事務局に



提出し、意見はこの内容に基づいて、発表しました。1グループ15人前後で、司会者を中心に、どのグループでも活発な話し合いが行われました。

○期 日 12月7日（土）9:20～11:50

○会 場 新庄市民プラザ 3階小ホール、会議室

○参加者 最上地区内各高校代表生徒、各市町村高校生ボランティア代表生徒、青少年育成市町村民会議関係者、青少年育成推進員、小・中・高等学校関係者等 87名

懇談会後の感想として、高校生からは、「長いかと思っただけ、とても楽しくあっという間に終わりました」、「高校生と大人が懇談する機会はないので、様々な考えを聞くことができ勉強になりました」、「田舎の良いところ、悪いところを知ることができました」などが、大人からは「高校生が、しっかりした考えを持っていることに驚いた」「大人では思いつかない発想があった」などの感想が寄せられました。

今後の課題として、懇談会の企画や運営にも高校生を交えてはどうかなどの意見がありました。

推進員の宝もの紹介

真室川

子供たちの力

真室川町青少年育成推進員 小松 功氏

私達の町では、毎年、中・高校生と懇談会をしています。今年は、懇談会を具体的な活動にしようと盛り上がっていたところ、高校生ボランティア「ホップステップ」が毎年主催し、大人のボランティアと一緒に「えんにち」という、子供たちに遊びや美味しいものを提供して楽しんでもらおうという、うってつけの催しがありましたので、それに協賛して餅をついて振舞うことにしました。

ところが、当日になって、餅のつき手もいない、餅を丸めてお配りする手も足りないという最悪の状況になりましたが、自分たちの催し物の準備で忙しい中、男子は臼を運んでくれたりテーブルを準備してくれたり、当日たまたま遊びにきていたOBの皆さんが最後までお手伝いをしてくれました。

正直言って、餅つきはできないだろうし、うまく丸めることもできないだろうと高をくくっていたところ、しっかりつき方やこね方ができるし、丸め方だけでなく、あんこの作り方やきな粉の配合、納豆餅の作り方まで完璧にこなしてくれました。周りの観客からは「大人より高校生の方がうまいんじゃないか？」との野次まで飛ぶ始末でした。

地域の昔からの生活や風習をしっかりと現代の高校生も親から受け継いでいるのだと感心しました。当町出身の若者はどこへいっても恥ずかしくないすばらしい青少年であります。

大蔵

さわやかな中学生

大蔵村青少年育成推進員 福本 浩氏

7月のある猛暑日、私は外で仕事をしていました。自分の住んでいる地区ではないため、知っている人もなく一人で作業をこなしていました。あまりの暑さに頭が「ボーッ」としてきたので、数百メートル離れた場所にある自動販売機のところに飲み物を買に向かいました。そこには、やはりあまりの暑さのためか、すでに中学生くらいの男子が4人たむろしていてジュースを飲んでいました。まったく知らない子ども達だったのですが、私が自動販売機の前に歩み寄ると、「さっ」とよけてくれた上に「こんにちは」「こんにちは」と4人全員が大きな声であいさつしてくれたのです。本当なら大人の自分の方からあいさつするべきだったと思い、恥ずかしくなりました。私はうれしさがこみあげ、とてもすがすがしい気持ちになりました。一瞬暑さを忘れ、さわやかな秋風が吹いたように感じました。

その後、暑さはあっという間にぶりかえしました。でも私はさわやかな気持ちのまままで仕事を終えることができました。私は今回の出来事を通して、改めて青少年育成推進員である自分の方から言葉をかけるよう心がけたいと思ったのでした。



新庄駅での啓発活動

編集後記

全国的に青少年の犯罪は減少しているというデータがあります。最上地区でも、年々、非行少年等の数は少なくなりつつあります。一方、増えているのは、「引きこもり」です。山形県でも調査を行っており新聞等に記事が載りましたが、決して少ない数ではありませんでした。インター

ネットや携帯電話を介した事件や犯罪に巻き込まれる青少年も増えていると言われます。どちらも共通しているのは、その実態が見えないことです。今まで以上に若者の心や行動に理解を寄せ、温かく見守る大人が求められていることを実感した一年でした。